

# 27AB-pm303

地域薬局薬剤師による早期体験学習参加学生の評価およびその解析

○八軒 浩子<sup>1</sup>, 伊藤 栄次<sup>1</sup>, 松野 純男<sup>1</sup>, 大内 秀一<sup>1</sup>, 和田 哲幸<sup>1</sup>, 中村 武夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>近畿大薬)

【目的】本学では薬学部1年生の早期体験学習において、開局薬局における薬剤師業務の見学を通して、地域医療への薬局薬剤師の役割および医療人としての態度を学ぶことを目標の一つとしている。この教育目標の達成確認のため、地域薬局薬剤師による担当学生の評価について検討した。さらに、自由記述欄の内容についてはテキストマイニング手法を用いて解析を行った。

【方法】大阪府薬剤師会を通して受け入れていただいた地域薬局98店舗に薬学部1年生164名を1～2名ずつ振り分け、8月の上・中旬に約2時間の見学を実施した。受け入れ薬局には、学生評価用チェックシートをあらかじめ配布し、評価後、返送いただいた。自由記述欄のテキストデータについては、KH coderを使用し、単語の出現頻度を数値化し、共起ネットワーク分析などを行った。

【結果・考察】チェックシート項目の挨拶、身だしなみ、積極性などの態度一般についてはおおむね良好な評価が得られた。しかしながら、数名については態度に関して低い評価を受けた。また、記述データを解析したところ、「質問」「見学」「薬局」「積極」「学生」「業務」「薬剤師」の出現回数が多く、「調剤」「忙しい」「患者」などが続いた。「質問」については、「積極的に質問された」が最も多かったが、「積極的に質問して欲しかった」という意見もあった。毎年、薬局見学において学生には積極的に質問するよう指導しており、評価結果から学生に対する指導がそれなりに反映されていると考えられる。また、共起ネットワーク分析から、「メモ」をしっかりと「とる」といった学生の態度も好印象を与えたことなどが分かった。これらの解析結果を今後の薬局見学に対する指導にフィードバックできるように検討していきたい。